

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 年 月 日

事業所名 発達相談支援センターココベリ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用人数、年齢幅、活動内容に応じ、職員の人数配置や別室を有効活用している	
	2	職員の配置数は適切である	○		国の人員配置基準に保育士、児童指導員等児童分野での経験と専門性を備えた職員を配置している	専門性を持った(言語聴覚士等)の配置を検討していく
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		利用児童の発達特性に応じ、小児用トイレ・手洗い場・整理棚を修繕	指導訓練室までの細かな段差や収納配置場所の検討を行い、引き続きバリアフリー化を進めていく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		日常の清掃、消毒を行い清潔な環境に気を付けている	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		PDCAサイクルを心掛け、日次、週次含めミーティングを行っている	職員が参加出来ない状況がある為、記録を残し参加できない職員へ再周知していく
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価表による評価と好評を実施し、意向を把握し、会議等で改善に努めている	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにより評価と好評を実施している	広く保護者へ周知していくため、書面配布も検討する
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		相談・苦情解決委員会の中で、第3者設置を早々に検討し、マニュアルに反映していく
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部研修動画や階層別研修を新設し、年間計画によるOFFJTやOJTを定期的実施している	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		保護者面談を行ったり、職員間で定期的に話し合う等ニーズの把握や行動分析を行い、個別支援計画に結び付けている	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		初回インテーク以外にアセスメントツールやサポートブックを使用し、共通化を実施	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ガイドラインに則した支援内容を個別支援計画に反映している	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		ミーティングでのアセスメントの職員の意見や課題を照らし合わせ、個別支援計画に沿った支援を心掛けている	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		プログラムは週担当が主体に活動を決定し、行事計画はミーティングで決定している	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		音楽療法、3B体操、感覚、知育等日替わり週替わりとなる様設定し、内容も発達等に応じ変化や改善している	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	○		一人一人の発達に応じ、個別・集団の課題を考慮し、個別支援計画に反映させている	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼時に役割や担当、活動内容の確認を行っている	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		記録入力時に情報を共有し、確認を行っている	全体での振り返りの場も提供し、サービスの質向上につなげていく
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個々が積極的に記録を取り、視点の違いや共有が出来ている	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		ミーティング日を設け、各職員より情報を聞き取りを行っている。記録の収集も含め一人一人違う視点から意見を上手く集約出来ている	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者や管理者、担当者等適任者を選んで出席している	今後、経験・育成の面から職員も同席させていく
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		コロナ禍の影響もあり、幼稚園や保育園との連携が難しい状況であったが、療育の共有の観点から、交流を増やしていく	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		※現在該当児童の在籍無し	必要に応じて連携について保護者と相談しながら行う
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		※現在該当児童の在籍無し	必要に応じて協力医療機関、主治医の指示をもとに、緊急時の搬送先等連絡体制を整える
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		関連した機関は出来るだけ出席し、情報共有ができています	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		移行先や保護者の要望に応じて情報提供を行っている。今後サポートブックを活用し、協力サポートを行っていく	相談支援員を介する事が多いため、直接的な機会が少ない、また連携を行う経験がない
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		利用者が併用する事業所間で放デイへの移行や今後の支援に関する共有を行っている	一部事業所で研修や助言を受けているが、今後他事業所との連携を増やしていく
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		児童が並行通園出来るように通園日や療育時間を調整したり、保護者の希望も踏まえ、通園先との連携を継続するコロナ禍の影響で交流の機会がない
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			地域の社会福祉協議会に参加している
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		日々の送迎等、児童の状況や課題について話をする機会を設けたり、必要に応じてzoomを活用し、個別の相談時間も設けている	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		就学前の利用者、保護者を対象に事業所内相談にてペアレントトレーニングを実施している	コロナ禍の影響により、外部講師を招待したペアレントトレーニングは実施できていないが、職員の質の向上に向けては引き続き研修の機会を設けていく
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に丁寧に説明を行っている	不明時は随時職員が説明できるよう、職員に対しても教育を行っていく
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		契約時等ガイドラインに従い、児童発達支援計画を示しながら、内容を丁寧に説明し同意を得ている	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時や希望等に応じ相談を実施している 非定期ではzoomによる相談を開催した	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	行事等で親子参加型のイベントを実施している	コロナ禍の影響で今年度も中止とした
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談や申し入れがあった場合、電話、面談等対応するよう努めている 苦情受付・解決相談も重要事項説明に記載し、契約時に説明している 苦情・解決委員会を設置し、総合的な研修の機会を設けている	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		おたよりを毎月発行し、行事予定や連絡事項等の情報を発信している 臨時休所時は法携帯にて各保護者へ連絡し、対応している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報に関する契約と並行し、保管・管理を徹底、人権配慮からも職員へ周知している	管理に関しては鍵付きキャビネットを検討していく
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		個別での対応や連絡帳を使った情報共有を図り、伝達の配慮を行っている	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		コロナ禍の影響もあったが、地域住民に向けた活動も検討していきたい

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		各委員会を設置し、マニュアルの制定・改廃を実施し、掲示を行っている 実施した訓練はお便りで保護者へ様子等を伝えている	保護者への周知方法を検討していく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		防火訓練等法令に基づく訓練を実施	BCPの制定を進め、模擬訓練や想定訓練を実施していく
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		保護者記入の緊急連絡先により把握し、必要に応じ聞き取りを行うことがある	風邪等の服薬を含め、保護者との事前共有を改めて検討していく
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		現状医師の指示書をもっている児童はいない	緊急連絡先や保護者からの聞き取りにより必要に応じ服薬や投薬等の情報共有を検討していく
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット報告書を作成し、ミーティングを通し、職員で情報を共有している	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待・身体拘束防止委員会を中心にOFFJTやOJTで研修を定期的に行い、実践につなげている	外部研修対象の幅を全職員へ展開していく
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		原則禁止のもと、重要事項説明書に記載し、保護者へ説明を行っている	外部研修対象の幅を全職員へ展開していく